

公益社団法人日本獣医師会における 薬剤耐性（AMR）対策の取組状況 （平成30年11月～令和元年11月）

令和元年11月27日

公益社団法人 日本獣医師会

副会長・専務理事 境 政 人

公益社団法人日本獣医師会における薬剤耐性（AMR）対策の取組状況

I 獣医師、医師、一般市民等に対する普及啓発活動

1 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウムの開催

- (1) 第8回日本医師会・日本獣医師会連携シンポジウム（平成30年11月16日）
「家庭内ワンヘルスの取組—人と動物における薬剤耐性（AMR）の実態と課題—」

医療分野3名、小動物獣医療分野3名が講演。参加者181名

- (2) 第10回日本医師会・日本獣医師会連携シンポジウム（令和元年11月25日）
「“One Health”時代を迎えた薬剤耐性対策」

第一部：耐性菌の現状と今後の展望

〔特別講演〕 1 医師側からの提言、2 獣医師側からの提言

第二部：動物分野及び医療分野における薬剤耐性対策の事例紹介
獣医師側の取組6名、医師側の取組4名



2 日本獣医師会獣医学術学会年次大会

- 日本獣医師会獣医学術学会年次大会（神奈川）（平成31年2月10日）
日本獣医公衆衛生学会、日本産業動物獣医学会シンポジウム
「わが国の薬剤耐性菌対策～ワンヘルスとしての取組み」

獣医療分野2名、医療分野2名が講演。参加者85名



II 日本獣医師会における薬剤耐性(AMR)対策についての検討

1 日本獣医師会One Health推進特別委員会 薬剤耐性(AMR)対策検討委員会報告(令和元年6月) 「小動物獣医療における薬剤耐性(AMR)対策としてのリスク管理措置の在り方」

(1) 薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン(2016~2020)に基づく農林水産省による調査への協力

- 平成30年度健康な愛玩動物由来薬剤耐性菌モニタリング調査
本会の協力により、全国178カ所の小動物診療施設において、
大腸菌(犬152株、猫159株)及び腸球菌(犬145株、猫90株)を分離

(2) 小動物診療施設における動物用・人用・輸入医薬品の使用実態調査 全国55の地方獣医師会の協力の下、会員獣医師が開設する小動物診療施設 172カ所における動物用・人用・輸入医薬品の使用状況について、国内初の 実態調査を実施

【調査結果】

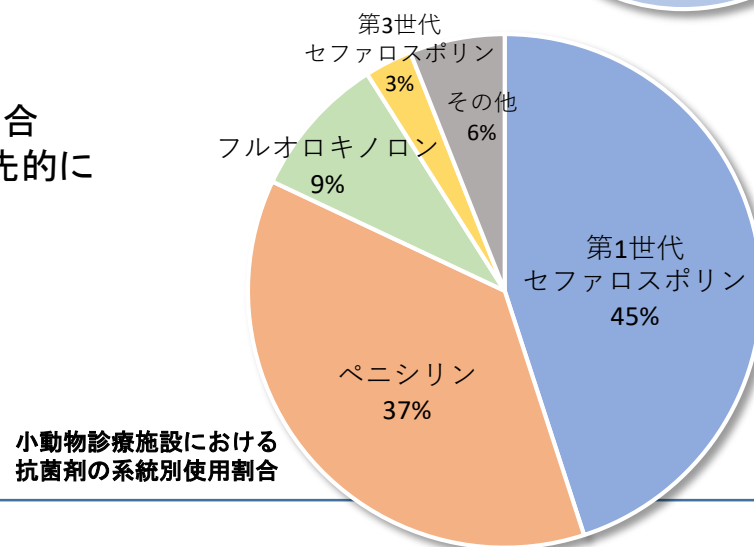
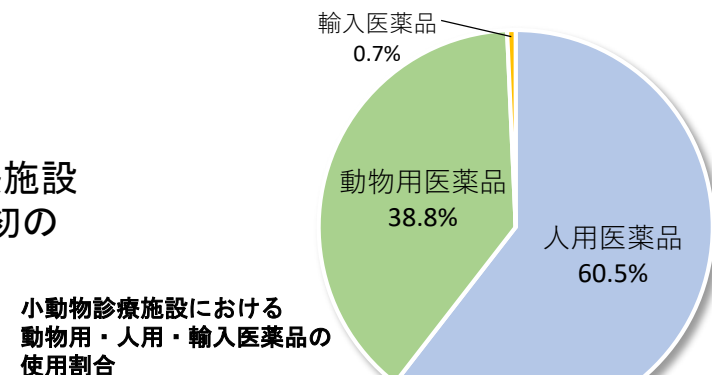
① 動物用・人用等の使用割合

人用医薬品60.5%、動物用医薬品38.8%、輸入医薬品0.7%

- 小動物診療現場では人用医薬品の使用割合は9割以上と言われていたが、今回の調査では60.5%と予想より低い割合
- 小動物用医薬品として承認されていれば、それらを優先的に使用する傾向を示唆

② 抗菌剤の系統別使用割合

第1世代セファロスポリン45%、ペニシリン37%、フルオロキノロン9%、第3世代セファロスポリン3%



II 日本獣医師会における薬剤耐性(AMR)対策についての検討

1 日本獣医師会One Health推進特別委員会 薬剤耐性(AMR)対策検討委員会報告(令和元年6月) 「小動物獣医療における薬剤耐性(AMR)対策としてのリスク管理措置の在り方」

(3) 現状と課題

① 獣医師による薬剤耐性対策としてのリスク管理上の課題

ア 小動物診療現場では、伴侶動物の生命と健康を守ることが最優先であり、効果が高いと考えられる抗菌剤を積極的に使用

イ 承認・許可された小動物用医薬品が少ないため、人用医薬品が獣医師の裁量と経験に基づき使用されており、犬や猫用としての用法用量、使用上の注意等の適正使用のための科学的情報が不足

ウ 小動物用医薬品は、人用医薬品に比べ価格が割高

エ 用法用量等の基本的情報のほか、慎重使用のためのガイドライン等も未整備

② 動物用医薬品製造販売業者が小動物用医薬品の開発を積極的に行わない理由と課題

ア 小動物用医薬品の市場規模が小さく、研究開発・製造販売に要する経費の回収が困難

イ 小動物用医薬品は人用医薬品と比べて割高とならざるを得ず、獣医師が小動物用医薬品を使用するか疑問

(4) 小動物獣医療分野における薬剤耐性リスク管理の在り方

① 農林水産省が行う疾病に罹患した及び健康な愛玩動物由来細菌の薬剤耐性モニタリング調査に積極的に協力し、公表される薬剤感受性試験データを細菌感染症治療における有効な抗菌剤選択に活用

② 農林水産省と相談し、本会と動物用医薬品業界が連携・協力して人用医薬品を小動物用医薬品として承認することを促進

③ ②に当たっては、人用の錠剤を動物用のチュアブルとする等の剤形変更を可能とし、獣医師や飼育者が犬、猫等に投与し易い利便性の高い抗菌剤を開発・提供することにより、割高の問題を解決

④ 農林水産省及び本会は、承認・許可された小動物用医薬品が存在する場合には当該動物用医薬品を優先的に使用し、用法用量に従った適正使用と薬剤耐性に留意した慎重使用を行うよう、獣医師に対して指導を徹底

II 日本獣医師会における薬剤耐性(AMR)対策についての検討

2 産業動物臨床・家畜共済委員会 産業動物臨床・家畜共済委員会報告(令和元年6月) 「産業動物獣医療提供体制の整備・充実について」

(報告書から抜粋)

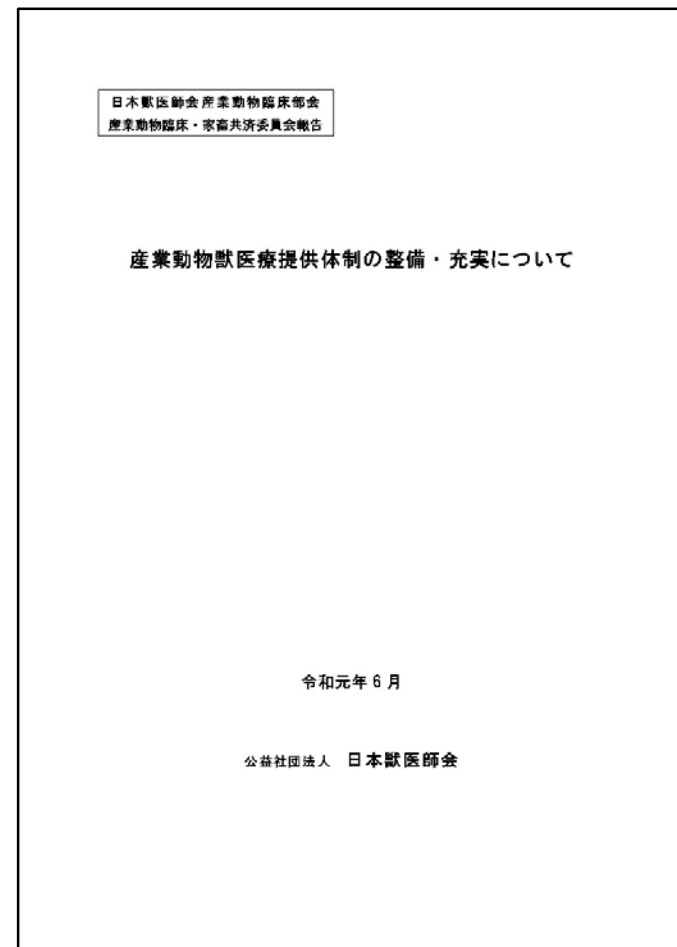
2 抗菌剤等の適正使用について(AMR対策を含む)

(1) 適正な診療に基づく処方及び適正使用

全ての畜産農場に農場管理獣医師の配置を義務付け、
適正な診療に基づく法令に従った抗菌剤の適正使用の
徹底

(2) 要指示医薬品制度の適正な運用

- ① 農場管理獣医師による要指示医薬品指示書の一元的な管理
- ② 診療簿(カルテ)と連動した指示書の一括管理システムの導入
及び法令遵守



日本獣医師会獣医学術学会年次大会(神奈川)
(平成31年2月10日)
日本獣医師会市民公開シンポジウム
「農場管理獣医師の仕事を知っていますか」